

取組の概要

対象畜種

豚、採卵鶏

協議会構成員

畜産農家（（株）ユキザワ、（株）シムコ 福島県 豚、（有）ふなばやし農産 青森県 豚・鶏、（有）ハイランド牧場 青森県 豚、（株）アイティエスファーム 岩手県 鶏）
柏屋商事、亀和田・北赤塚営農集団、伊藤忠飼料、
栃木県上都賀農業振興事務所、鹿沼市農政課 等

飼料用米生産面積

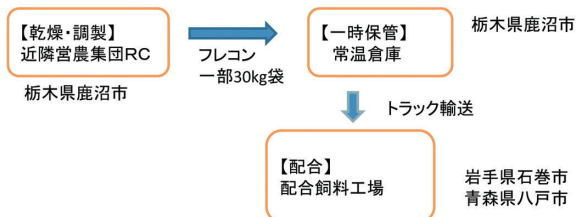
21.6ha

供試品種

こしひかり 0.2ha
あさひの夢 21.4ha

取組内容

①飼料用米の流通、保管、調製に係る実証調査



- ◆飼料用米は、近隣の営農集団ライスセンターにて乾燥調製
- ◆乾燥調製後全量、柏屋商事保有倉庫で、主食用米との区分して保管
- ◆倉庫から、伊藤忠飼料石巻及び八戸工場に適宜配送

②飼料用米の給与による家畜・畜産物への影響調査 (畜産物の成分分析を含む)

試験設計：肥育豚 配合飼料に5%配合
出荷前60日間給与

採卵鶏 成鶏用飼料に10%配合
(一部60%配合)

調査項目：肥育豚 増体、格付け等の生産性調査
(出荷成績による)

採卵鶏 産卵率等の産卵成績
卵黄色等の卵質検査成績

取組によってわかったこと

1. 調製・保管・流通について、次のことがわかりました。

- 調製については、20年産米は、主食用で作付したことから近隣の営農組合の施設を借りられフレコンでの出荷が可能となりました。
- 21年産米は、専用品種（モミロマン）を作付し、作付面積も拡大することから、収量の増量が見込まれ、また、営農集団が補助金を利用してライスセンター等を整備することから、調製費用等の軽減が期待されます。
- 保管については、柏屋商事の倉庫で対応したが、今後、増量することから、管場所や低温倉庫の確保等の課題があります。
- 流通については、各生産者が柏屋倉庫まで、運び込む事とし2t車の無料貸出しを行ったり、柏屋倉庫から伊藤忠飼料の石巻工場までの運賃は、伊藤忠飼料が負担して下さったので、生産者の直接の負担が無く助かりました。
- 石巻工場までの移送は、破損等の事故も無く出来ました。
- フレコンでの出荷が終わり、今後、紙袋での出荷となることから、労力がかかると考えられます。
- 飼料用米の価格は安価であることから、補助金の存続が必要であると考えられます。

2. 家畜・畜産物への影響について、次のことがわかりました。

- 家畜（豚）の発育については、飼料用米給与で増大する傾向が見られたものの、飼料要求率は劣る傾向が見られました。
- 家畜の血液性状については変化は見られませんでした。
- 畜産物（豚肉）については飼料用米給与によりやわらかく感じる傾向が見られました。
- 家畜の飼養試験及び畜産物の評価については、個体差ならびに嗜好の差等があり評価が難しいが、従来のトウモロコシ主体の配合飼料と同等と考える結果となりました。

3. 今後の飼料用米の取組予定などについて

生産者手取り額は、20年産飼料用米の買取価格30円/kgと、補助金25円/kg、あわせて55円/kgとなりました。

加えて、産地づくり交付金等補助金があったので、生産者にとって、多少の利益はあったかと思われます。

また、21年産米には、水田等有効活用促進交付金等が創設されたが、長期的見通しにたった助成が必要かと思われます。

保管・流通に関しても価格面への影響は大で、保管料・入出庫料・修繕費への助成も必要かと思われます。

水田の保全・需給率の向上・食の安全といろいろな関わりがあるので、関わっている全ての人が、必要としている補助金を受けることができたらと思います。

柏屋商事株式会社 鈴木久美子
伊藤忠飼料株式会社 江口 隆之

参考データ・写真等



飼料用米収穫



飼料用米調整



飼料用米搬入



飼料用米保管